



2013年3月11日(月)発行

企画・監修：広域避難者研究会・埼玉班 執筆：『福玉便り』編集部 編集デザイン：NPO 法人ハンズオン埼玉
協力：(一社)埼玉県労働者福祉協議会・震災支援ネットワーク埼玉 (SSN)

埼玉の皆様へ

こんにちは

『福玉便り』と申します。

福島・東北から、未だに**6700人以上**の方が、ふるさとを遠く離れ、家族と離れ、埼玉に避難を余儀なくされています。

『福玉便り』はこうした方々に向けた唯一の新聞として、ほぼ毎月、4000部をお届けしています。埼玉県内で支援活動を行なってきた団体・ボランティアが共同して編集し、県内の企業の方が印刷をして、避難者のグループや自治体の方が配布をしてくれています。

3年目を迎えて、避難されている皆さんの状況が今、どうなっているのか、どんなことを感じて毎日暮らしていらっしゃるのかを、あらためてお伝えしたいと思い、この「2013春の号外」を編集しました。どうぞ一読いただき、避難されている方々の声に耳を傾けてください。そして、皆様の声をお寄せください。

【ひろば】読者の皆さん
の声のコーナーです。

↓15ページ

春からは、パソコンを勉強して自分で情報を探そうという気持ちが芽生えています。(万代洋子さん・石巻市から
さいたま市へ避難)



今まで息子夫婦、孫達との同居だったので家の中が賑やかでしたが、現在は大人だけの生活になり、活気もなくなり、たまに孫が泊まりに来るのを待っています。もうこの先一緒に暮らせない、この悲しさを悔しさ、誰にぶつけたらいいのか。(南相馬市、六十代女性)

『福玉便り』読者
アンケートから
→12ページ



避難されている方が、
埼玉で開業された
お店のご紹介!
→14ページ



福玉マップ →4ページ



3度目の春、「避難」と「受け入れ」の現在。 →2ページ



「離れば離れるほど、福島に戻りづらくなる。だからと言って埼玉に永住するわけではなく、どつつかずな気持ちがする。」「洗濯物を干していく時に、ふと、「なんでここにいるんだっけ?」って思う。」

自主避難者懇談会 →10ページ



鈴木 初め

て、一時帰宅をしたときは感動しました。でも、だんだん荒れて、帰る気がなくなるんです。

佐藤 みんな、拠り所を出でてくるけど、出でこない人は出でこない。そこでは、個別訪問を考えています。

避難者グループリーダー座談会 →6ページ



橋 出でてくる人ばかり、「震災ってなんだろう」と一緒に考えてもらえばいいかな、と。

篠原 ふれている私をみながら、「震災ってなんだろう」と一緒に考えてもらえばいいかな、と。

新妻 避難者・支援者を越えて、人として想いあうことで強くなる。

いざっしゃい!



3度目の春、「避難」と「受け入れ」の現在。

日本大震災は、東北地方を中心
に甚大な被害をもたらしたた
だ。復興庁によると全国で約
31万5千人、埼玉県内で約4
千人の方が避難生活を送ってい
るときれいですが(2013年
2月15日時点、復興庁ホームページ
より)、こうした広域避難をめ
ぐる大きな問題の1つとして、
国や各自治体が避難者的人数
を正確に把握できていないとい
うことが挙げられます。

ここでは、埼玉県への避難者
の数と経緯、埼玉県における受
け入れと支援についてお伝えい
たします。(編集部・原田)

す。しかしながら、今も避難指
示が敷かれた地域も多く、個々の生活事情も相まって、多くの方が埼玉県での避難生
活が長期化しています(12~13ページ
のアンケート参照)。

埼玉県では、震災直後から多くの自
治体が体育館・福祉センターなどで避
難者を受け入れてきました。「さいた
まスーパー・アリーナ」に最大で
2500人が避難し、大勢のボランテ
リアが集まつたことは、テレビ等でご
覧になつたかと思

ります(12~13ページ
のアンケート参
照)。

代わって、「借り

た。多くの避難所
が閉鎖となりまし
た。代わって、「借り

■熊谷ふるさと交流サロン【熊谷市】
2か月に1回のペースで交流会をおこなっています。



**■ライフサポートステーションネット
21 熊谷【熊谷市】**
労働や雇用、暮らしの無料相談。支援物資の配布もあります。

■<想い>【鴻巣市】
鴻巣市赤見台に避難している方を中心に結成。交流会、「損害賠償説明会」など定期的に開催しています。会報<想い>も発行。

■きずなの会【東松山市】
雇用促進住宅で結成された「きずなの会」が毎月交流会をおこなっています。

■鳩山町震災支援ボランティア実行委員会【鳩山町】
「鳩のつどい」を毎週実施しています。

■福島女性県人会【川越市】
福島県出身の女性なら、どなたでも!被災により移り住んで来られた方も。福島弁で、思いっきり話しましょう!
毎月第3木曜に開催。

■ここカフェ@川越【川越市】
『心の内を話せる場を作りたい』という、ゆるやかな茶話会です。お子様連れも大歓迎です。主催:実行委員会+社協

■おあがんなんしょ【ふじみ野市】
ふじみ野市では、毎月1回避難者の方々の交流会「おあがんなんしょ」が開かれています。

■羽生・つながりカフェ【羽生市】
毎月第2日曜日に開催しています。

■新座つながりカフェ【新座市】
2012年の夏から交流会をはじめています。

■青空あおぞら【所沢市】
2013年3月から避難者の呼びかけで交流会がはじまりました。



埼玉県内の各地で、被災者・避難者と支援者が一緒に交流の場をつくっています。



■F カフェ珠寿
避難者の方々によるcafe、交流スペースです。

■旧騎西高校
避難者の方々によるさまざまな活動が行われています。

■寄り添いステーション騎西【加須市】
マッサージや、お饅頭、手作り品、地元の野菜などのコーナーがあります。双葉町に限らず、加須市周辺に避難されてきた方々、ぜひお立ち寄りください。加須ふれあいセンター 0480-65-7938

■シラコバト団地被災者の会・ひまわり【上尾市】
県営シラコバト団地に避難してきた方々を中心に、月1回の交流会をおこなっています。

■杉戸元気会【杉戸町】
富岡町から杉戸町の国家公務員宿舎杉戸住宅に避難した方々を中心に、週1回の交流会を実施しています。

■春日部・つながりカフェ【春日部市】
月に1回、お茶を飲みながら交流しています。

■相双ふるさとネットワーク【さいたま市など】
福島県相双地区から避難した方々と同じ地元出身者を中心とするネットワークです。

■一歩会【越谷市など】
越谷市を中心に300名の会員が所属し、月1回のイベント・交流会や見守り、地域の方々と共同の農作業などをおこなっています。

■「ひまわり」の会【川口市】
川口市に福島県に避難してきた人達が中心になり、サロン(茶話会)を月1回開いています。

■さいがい・つながりカフェ【さいたま市など】
広い和室で食べながら、飲みながら、心ゆくまでおしゃべりしましょう。月二回 木曜日。
主催・場所: With You さいたま

■放射能から避難したママネット@埼玉【さいたま市など】

『福音便り』読者アンケートから

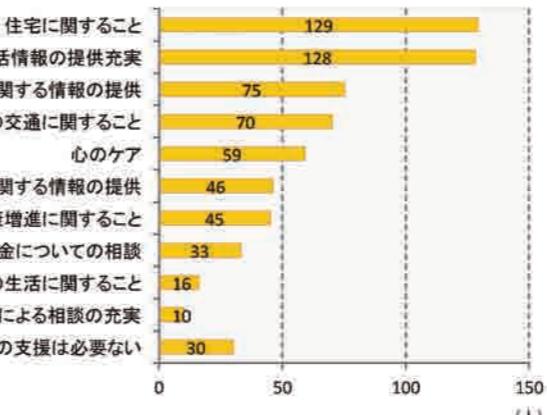
2013春の号外 2013年3月11日発行

昨年12月、「福音便り」編集部に住所を登録していいる500世帯を対象に、アンケートを実施いたしました。いくつかの地域では避難者の方々同士でアンケートの「コピー」を配布してください、最終的に231人の方からご回答をいただきました。ご協力いただいた皆様に、改めてお礼を申し上げます。ここでは、アンケートの集計結果と自由記述から見えてきた、避難者の方々の現状や今後について、お伝えいたします。(編集部・原田)

1. 生活支援について

まず、どのような生活支援を期待しているか尋ねたところ、図1のような回答がありました。このうち、特に回答が多かった住宅に関する期待として、自由記述で以下のようないつた。

図1. 期待する生活支援(複数回答)



安の声が寄せられました。

現在借り上げ住宅に住んでいますが、震災当時小学生だった長男も今は中学生になり、6畳2間のアパートで家族5人ではあまりにも狭く、勉強するにも下の子2人がテレビを見たりしていると集中する事ができなく、せめてもう一部屋あつたら普通に布団をひき事も小さなテーブルを置いて勉強させる事もできるのに…と思う日々です。(富岡町、三十代女性)

★今、県営住宅に住んでいますが、あくまでも避難民への提供であり、延長ではなく普通の方と同じ家賃を払って住めないのかと聞いたところ、「から応募して当たればですね」と言されました。「…にすつといいていいとなれば、妻が仕事したり保育園へ預けること

も可能になるんじゃないかなと思っています。やっと住んでいる皆さんと仲良くなれたのに、またからやり直しという

とかなりきついなと感じています。(いわき市、二十代男性)

★月に1~2回は車で福島に帰っているので、高速料金やガソリン代など大変です。せめ

て高速道路が無料になつてくれれば毎週末には父親に会わせてあげることが可能になるのに、と思います。(一本松市、四十代女性)

つているので、高速料金やガ

ソリン代など大変です。せめ

る

抱えていることを、もっと気軽にかけて欲しい。(富岡町、四十年代女性)

また、自主避難した方々を中心には避難元との交通に関する要望が自由記述に多く寄せられました。

★月に1~2回は車で福島に帰ったとき

に、秩父の良さを話せると思

う。(いわき市、五十代男性)

★蓮田市近郊でのイベントがも

ら、いずれ地元に帰ったとき

に、秩父の良さを話せると思

う。(いわき市、五十代女性)

震災直後に、石巻から娘が住んでいたま市へ避難された万代洋子さん（石巻市からさいたま市へ避難）



柏葉町から5回の避難の末、埼玉にお世話をなつております。

福島の自宅の近くには中間貯蔵施設ができ、放射能が心配されます。夫婦だけで帰つて生活するのか、終の棲家をどこにするのか、決めかねています。

帰つたとしても、自然とふれあうことができず、何をして過ごしていいのか・先の見えない生活が続ります。

柏葉町さん（柏葉町からさいたま市へ）

春からはパソコンを勉強して自分で情報を探そうという気持ちが芽生えています。福玉の読者の方で宮城出身の方がおられたら、お話ししたいですね。

柏葉町から5回の避難の末、埼玉にお世話をなつております。

福島の自宅の近くには中間貯蔵施設ができ、放射能が心配されます。夫婦だけで帰つて生活するのか、終の棲家をどこにするのか、決めかねています。

帰つたとしても、自然とふれあうことができず、何をして過ごしていいのか・先の見えない生活が続ります。

柏葉町さん（柏葉町からさいたま市へ）

震災直後に、石巻から娘が住んでいたま市へ避難されたま市へ移り住みました。さいがいつながりカフェで福島からの方々と知り合いになり、いろんな機会に声をかけてもらつたおかげで友人がたくさんできました。

この縁を大切にしていこうと思うことで前向きに暮らせるようになりました。

ですから『福島』『宮城』と出身地にこだわる気持ちはありませんが、同郷の方と出会つて話すのもやはり嬉しいものです。

春からはパソコンを勉強して自分で情報を探そうという気持ちが芽生えています。福玉の読者の方で宮城出身の方がおられたら、お話ししたいですね。

柏葉町から5回の避難の末、埼玉にお世話をなつております。

福島の自宅の近くには中間貯蔵施設ができ、放射能が心配されます。夫婦だけで帰つて生活するのか、終の棲家をどこにするのか、決めかねています。

帰つたとしても、自然とふれあうことができず、何をして過ごしていいのか・先の見えない生活が続ります。

柏葉町さん（柏葉町からさいたま市へ）

震災直後に、石巻から娘が住んでいたま市へ避難された万代洋子さん（石巻市からさいたま市へ避難）

震災直後に、石巻から娘が住んでいたま市へ避難されたま市へ移り住みました。さいがいつながりカフェで福島からの方々と知り合いになり、いろんな機会に声をかけてもらつたおかげで友人がたくさんできました。

この縁を大切にしていこうと思うことで前向きに暮らせるようになりました。

ですから『福島』『宮城』と出身地にこだわる気持ちが芽生えています。福玉の読者の方で宮城出身の方がおられたら、お話ししたいですね。

柏葉町から5回の避難の末、埼玉にお世話をなつております。

福島の自宅の近くには中間貯蔵施設ができ、放射能が心配されます。夫婦だけで帰つて生活するのか、終の棲家をどこにするのか、決めかねています。

帰つたとしても、自然とふれあうことができず、何をして過ごしていいのか・先の見えない生活が続ります。

柏葉町さん（柏葉町からさいたま市へ）

ひろば 読者の皆さんのお伝えするコーナーです。

○浪江風焼きそばのお店『偉助』

越谷市東越谷3丁目8-5 TEL 048-940-2881
平日11時～14時 木曜日定休 土日祝11時～17時



昨年1月の開店以来、東越谷ですっかり地元のお店として根付いてきた浪江風焼きそばのお店「偉助」。現在は南相馬から避難してこられた渋谷美津子さんが腕をふるっています。「だいぶ状況が変わってきたね。福島に戻った人もいるし、仕事の関係で東京に越して行った人もいる。私はここで暮らしていくのかなあ、まだわからないけど、だいたいね」…少しづつ日常を取り戻そうとされている様子です。

大きなお祭りなどにも出店したり、今後はお昼時に市役所への出張販売なども考えているとか。店舗は避難者の集まりなどでも使われることがあるそうで、取材中に一步会の支援者・関根さんが「明日は芋を植えるからおいでよ」と説いていました。

すると、注文の電話が入りました。「前もって予約してくれたら配達もしますよ」とのこと。メニューは、太麺・もやしがたっぷり入った大ボリュームの浪江風焼きそばのほか、イカ・ぶた・ミックスのお好み焼き、越谷生まれの新名物「とんこし焼きそば」。ぜひ一度食べて見てくださいね!(T)

○『BISTRO相馬亭』

熊谷市新堀新田492-12
TEL048-532-6815

2012年夏、「相馬亭」というお店ができたという情報入手した福玉便り編集部は、冷たい生ビールを求めてJR高崎線籠原駅に向かいました。徒歩5分ほどでめざすお店に到着。さっそくスペアリブをほおばりつつ、オーナーシェフの関敏明さんにお話を聞きました。

関さんは札幌育ち。有名ホテルなどで修行したのち、東京や山梨でフランス料理など洋食のシェフとして活躍しました。震災3年ほど前に母親の故郷である相馬に移住。震災時は南相馬市小高の焼肉店で働いていました。

何とか避難先を転々としたあと、2011年夏、知人の紹介で熊谷にきました。実は、朝3時から工場の社員食堂で働きながらお店を開業。

「いろいろな人にお世話になってきた。頑張らなくちゃ」と、関さん。屋間は高齢者の居場所にできないか、と模索中とのことです。「いつか、相馬にお店を出したいです」(N)



避難されている方が、埼玉で開業されたお店です。ぜひお訪ねください!

○寄り添いステーション騎西

平日7時～17時に開設のほか土日にイベント。加須市正能11-5 TEL0480-31-9511



寄り添いステーション騎西は、加須ふれあいセンターによる運営のもと、2012年の7月8日にオープンしました。ステーションのなかでは、双葉町の森さん・関根さんが作った「茶まんじゅう」の販売、渡辺さんによる書道教室、「双葉整膚クラブ」の方々によるマッサージ、野菜や手作り雑貨の販売など、多岐にわたる活動が展開しています。11月からは、お昼の定食の提供も始まりました。そのほか、毎月第2土曜日には「寄り添いコンサート」が開かれたり、双葉町にゆかりのある方が三味線や弾き語りなどを披露しています。

加須ふれあいセンターの山口さんは、「今後も、双葉町の人と加須市の人が区別なく、一緒に何かをしていく場所にしていきたいです」と思いを語ってくださいました。(H)



○双葉理容

TEL:0480-53-4865(定休日:月・火曜日)
〒347-0105 埼玉県加須市騎西19-8

福島県双葉郡双葉町は、現在、警戒区域として立ち入りが制限されています。その双葉町から、町役場と住民が、埼玉県の旧騎西高校に避難されています。その中の一人、大井川繁光さんは、避難の地である加須市で、昨年12月「双葉理容」をオープンさせました。妻・昭子さん、長男の妻・礼子さんと、お店を切り盛りしています。

「最初は、ここでお店をはじめても人が来てくれるのか、心配でした。でも、今日も4人ほどお客様が来てくれました。ここで、同じ境遇の方とお互いの震災から今までの話をして、一緒に涙を流すこともあります」

孫に残そうと思っていた自分のお店もなくなってしまい、今後どうしていくか、悩んでいると大井川さんは言います。

「不安なことはあるけれど、いまは、お金儲けより、お客様が大事。来てくれるから一生懸命やろう、という気持ちになります。オープンの時、いろいろな人が来てくれて嬉しかったけど、もっと嬉しかったのは、最近の、2回目のお客様です。」

オープンだから行ってあげようというのではなく、ずっと応援してくれていることを感じるんです、とお話ししてくださいました。双葉理容は、男性はもちろん、女性のためのカットメニュー、シェービング・フェイシャルエステやローションパックのメニューもあります。メイクはサービス。お子さん連れの方は託児もあります。是非、足を運んでみてください。(I)



福玉便り 2013 春の号外

企画・監修：広域避難者研究会・埼玉班

西城戸誠（法政大学人間環境学部）

原田峻（東京大学大学院人文社会系研究科）

執筆：『福玉便り』編集部

伊藤千亜（ここカフェ@川越）

薄井篤子（With You さいたま さいがいつながりカフェ実行委員会）

永田信雄（（一社）埼玉県労働者福祉協議会）

西川正（NPO 法人ハンズオン埼玉）

原田峻（東京大学大学院人文社会系研究科）

町田由香（震災支援ネットワーク埼玉）

編集デザイン：NPO 法人ハンズオン埼玉

協力：（一社）埼玉県労働者福祉協議会

震災支援ネットワーク埼玉（SSN）

印刷：西桜印刷株式会社

連絡先：（一社）埼玉県労働者福祉協議会

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21

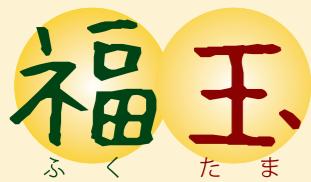
TEL 048-833-8731 メール:fukutama@431279.com

本誌は、厚生労働科学研究費補助金「福島第一原子力発電所事故による避難者のソーシャルキャピタルと被害構造に関する実証的研究」（平成24～26年度）による成果の一部です。

何とか避難先を転々としたあと、2011年夏、知人の紹介で熊谷にきました。実は、朝3時から工場の社員食堂で働きながらお店を開業。

「いろいろな人にお世話になってきた。頑張らなくちゃ」と、関さん。屋間は高齢者の居場所にできないか、と模索中とのことです。「いつか、相馬にお店を出したいです」(N)





福玉王、募金を呼びかけています。

埼玉県内に避難されている福島・東北の方々の
「隣りにいる人」になっていただけませんか。

地震、津波、原発事故から3回目の春を迎えるました。

ふるさとを遠く離れ、家族と離れ、埼玉にも**6700人以上**の方が避難しています

住む家のこと、仕事のこと、子どものこと、家族のこと……、

先の見えない不安の中で、今日も埼玉で暮らしていらっしゃいます。

充分な情報や具体的な見通しも持てない中で、

「次の決断」を迫られている方も数多くいらっしゃいます。

私たちは、この2年間、「支援」という名でたくさんの方々と出会い、話をして、食べて、泣いて、笑ってきました。ふりかえると、何ができたというわけではなく、ただ「隣りにいた」だけともいえます。これからも、そうかもしれません。

でも、それが私達にできることなら、可能な限りそうしたいと思っています。

そして、もっと多くの方と一緒に「隣りにいる人」でありたい、と願っています。

2013年
3月～5月
目標金額
200万円

しだいに報道や情報が少なくなり、不安に感じますが、『福玉便り』が届くと「私達がここにいる事を忘れないでくれる人がいる」と思い、ほっとします。

(福玉便り編集部にいただいたメールより)

送金
先

**中央労働金庫 さいたま支店 普通預金 6600705
郵便振替口座 00160-0-291210 福玉募金**

* 3000円以上ご寄付いただいた方には、福玉便りを一年間お送りいたします。
送付先お名前、ご住所を下記までご連絡ください。
メール:fukutama@431279.com FAX:048-833-8746



福玉募金は、こんな活動につかわせていただきます。

①家族、親戚、友人の「再会」を応援します。

②避難者同士が支えあう活動を応援します。

③避難者と埼玉県民の出会い・支え合いを応援します。

④避難されている方に、メッセージを送り続けます。

●県内各地で行われている避難者による交流活動の応援
県内各地で開かれている交流会などの会場費、託児の費用など

●『福玉便り』の発行

月刊で発行している避難者向けのニュース『福玉便り』の発送費用など



●『福玉バス』の運行

年数回、福島と埼玉を結ぶバスの運行経費の一部を応援

●避難者グループ同士のネットワークづくり

県内 15 の避難者自身のグループをつなぎます（福玉会議の開催など）

募金の使途・決算については、定期的にインターネット、報告書、報告会などを通じてご報告いたします。



(一社) 埼玉県労働者福祉協議会 〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21

TEL 048-833-8731 メール:fukutama@431279.com

または 特定非営利活動法人ハンズオン埼玉 TEL : 048-834-2052 まで